

(一般社団法人) 大学女性協会仙台支部便り

「け や き」 No. 29

令和7年6月20日発行



最近の活動と参加人数

2025年

1月30日(木) 2024年度 公開講演会 (会員10名 非会員14名)

「スウェーデンの優しい学校 ―平等で寛容な社会を担う市民を育む―

(宮城学院女子大学教授 戸野塚厚子氏)

エル・パーク仙台 創作アトリエ

2月22日(土) 2024年度 新年会 (会員12名)

「災害後の地域社会における地場産業の復興と社会的価値に関する考察」

(東北大学大学院情報科学研究科 I.Y.さん)

中国北京料理 飛天

4月19日(土) 2025年度 支部総会 (会員13名)

「マウスにおける精神的ストレス経験後の末梢臓器の活動変化が腹側海馬での記憶の固定化に与えるメカニズムの解明」

(東北大学大学院薬学研究科生命薬科学専攻 塩崎裕美さん)

エル・パーク仙台 特別会議室

5月17日(土) - 19日(月)

【本部】2025年度全国総会・第14回定時会員総会

新潟(仙台支部から1名)

★このほか毎月1回、役員会を開催しております

エル・パーク仙台 市民活動スペース

※ 講師・話者は参加人数に含んでおりません。

本号の内容

2024年度 公開講演会ご報告 (N.S.)

2024年度 新年会ご報告 (Y.R.)

2025年度 支部総会ご報告 (A.C.)

2025年度 全国総会ご報告 (A.F.)

秋の音楽鑑賞会のお知らせ 9月14日(日)「澁谷由美子 ヴァイオリンリサイタル」

2025年度 今後の予定

2024年度 公開講演会ご報告

N. S.

講演会は相澤富美江支部長のご挨拶、中屋紀子副支部長による講師・戸野塚厚子先生のご紹介をもって始まりました。

先生は「高度な福祉社会スウェーデンで、子ども達はどんなふうに学び育ってゆくのだろうか」という関心から研究を始められ、以来、今日まで25年以上の長きに亘って現地の数多くの教育現場で見聞を重ね、研究を深めて来られたということでした。

先生の目に映ったスウェーデンの人々や教育システム、社会のしくみが生き生きと語られ、私はそのひとつひとつに驚き、同感し、時に衝撃を受けながら聴き入っておりました。

まずFIKA。スウェーデンには家庭でも職場でも、一日に何回もお茶を飲んで休息する文化が浸透しているようで、学校の職員室でも先生方がコーヒーカップを手にラフな格好で、心地よさそうにくつろいでいる映像が紹介されました。一律に机を並べ、管理職の指示や指導を受ける日本の職員室とは全く異なり、室内はまるで洒落なカフェのようでした。「校長先生は4番目」というフラットな組織、肩書や役職に関係なく平等にゆったりとFIKAを楽しみあえる開放感とゆとりは、スウェーデンの教育のあり方を象徴しているように感じられました。



次に先生は、現在の基礎学校（義務教育学校）の特徴を学期・時間割・休憩・評価などにわたって詳細に説明して下さいました。9年制で誰でも無料。2学期制で8月が入学式、始業式。夏休みは2ヶ月近く、冬休みは3週間。秋休み、イースター休暇、スポーツ休暇などがたっぷりあって、6月に卒業式、終業式。時間割は担任が生徒達と相談して決めることができる。評価は一人一人のファイルに学びの軌跡が記され、デジタル化やランク付けはしないなど、全てにおいて子どものトータルな成長と変化が重視されている学校でした。

競争のない学校って、ストレスがなく開放的で、本当に子どもに優しいんだろうなあと思わずにはいらませんでした。

また、カリキュラムは国がどんな市民を育てようとしているか、どんな社会に向おうとしているかという市民像・社会像に呼応して変遷し、その成果は社会で試され還元されるという考え方で作られるそうです。先生は1969年の人間平等・男女平等から現在の多様性・多文化共生までに至るカリキュラムの目標も紹介して下さい、「教育のグランドデザイン」がいかに重要であることを教えて下さいました。

子どもは1個の人格として尊重され、コロナ下では首相と子どもの対話が行われ

たり、2020年の国営放送は子どものためのニュース番組や子どものための緊急記者会見を放送したと伺って、私は目をまるくしてしまいました。

子どもの権利をこのように大切にすスウェーデンの大人社会は、対話をベースに他者と共生する試みが不断に模索されている成熟した社会だということがよくわかりました。

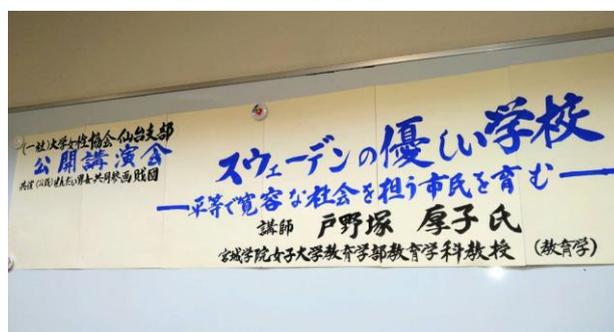
スウェーデンが生んだ世界的な物語『長くつ下のピッピ』も紹介して下さい、周りと違うことは自らの個性であり魅力であるという素晴らしい希望を語って下さいました。

講演後、会場からは「スウェーデンにも不登校の生徒はいますか」「いじめはありますか」の2つの質問が出されました。先生は即座に「います。数字的に多くはありませんが、います。」「いじめも日本のように顕在化してはいませんが、ゼロではありません。」とお答えになり、続けて「人間の集団である限り移民の子をのけ者にするような問題もあるけど、みんなで対話しながら対処していける雰囲気とシステムがあります。」ともお答えになって、多様性を重んじる社会の葛藤と取り組みを率直に話して下さいました。

この質疑応答からは、社会民主党が作りあげてきた骨太の社会への信頼と、民主主義を守るたゆまない努力を続けるスウェーデンの人々に対して深い共感を抱いておられる先生の真っ直ぐな姿勢が伝わってきて、私は、先生がスウェーデンの学校教育に魅かれたのは、先生ご自身が偏見のない開かれた人格であったればこそではないかと思ひ至ったのでありました。

講演会は、学問研究とお人柄が一体となった戸野塚先生の幅広く豊かなお話しと、聞く者の積極的な姿勢がひとつになってとても充実した学びとなりました。日本の教育や社会をふり返る新たな視点を与えて頂いたにとどまらず、自分自身のあり方も自問させられる場であったと感謝で一杯です。

この日は雪が舞う寒い日でしたが、先生から頂いたメッセージ「問い続けること、あきらめないこと、出来ることから始めること」を胸に刻み込んで、とても温かい気持ちで帰路についたことでした。



↑ 達筆な O.K.さんが横断幕を作ってくださいました

← スウェーデンの学校で長年にわたり実証研究を行ってこられた戸野塚厚子先生

2024年度 新年会ご報告

Y. R.

2024年度の新年会は、2月22日（土）12時から仙台市青葉区一番町の中国北京料理「飛天」で開催されました。“最長寒波 三連休初日を直撃”との予報に心配していましたが、当日は春めいた柔らかな日差しに恵まれ、登米のS.Y.さんを含めて12名が出席しました。

相澤支部長の挨拶で、「今年の新しい試みとして、新年会の話題提供は、仙台支部推薦の国内奨学生に応募された方に研究内容を紹介していただき、ささやかながら今後のご活躍を応援させていただきたい」と、お招きするに至った経過が披露されました。

快くお引き受けくださったのは、
東北大学大学院情報科学研究科社会学専攻1年 I.Y.さん

「災害後の地域社会における地場産業の復興と社会的価値に関する考察」

会場に準備してくださった資料によると

宮城県山元町出身。山形大学人文社会科学部では、「山元町の都市改造型復興の事例から復元力の検討」、現在は「東日本大震災後の被災地における酒蔵再建に注目した、地場産業が持つ社会的役割及び価値の抽出」の研究に取り組んでいる。

研究目的：山元町にはこれまで災害の記録がなかったことから、東日本大震災からの復興過程に着目し、地域が持つ災害からの復元力を構成する要素（回復力・予防力）について明らかにする。

東日本大震災の日、彼女は山元小学校3年生（9歳）。避難所となった学校にいた。母が保健師、父は消防、祖母は民生委員。家族が迎えに来たのは夜も更けてからのことだったなどエピソードを交えながら、卒業後は防災にかかわる技術職に就きたいと、生き生きと発表してくださいました。



↑ 研究のお話をしてくださったI.Y.さん(前列中央)

乾杯の挨拶でN.S.さんが、「大学女性協会が今後も活動を通して社会に貢献することができますように、若い研究者が安心して研究を続けていけますように」と述べられた言葉が心にしみました。

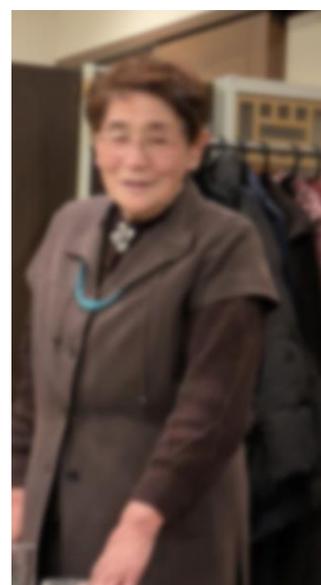
N.N.さんの司会で、お食事を楽しみながらそれぞれに近況報告。トップバッターはO.K.さん。

「めぐり逢ひて見しやそれともわかぬ間に雲がくれにし夜半の月かな」と朗詠。かるた会活動への熱い思いや、昇任試験を薦めた上司とのやり取りなどユーモアたっぷりに、まるでノンアルの乾杯で早くも回ったかのようなご機嫌の楽しいスピーチで座を和ませてくださいました。介護の合間をみながら欠かさず出席してくださるK.K.さんからはご夫婦の日常の会話の微笑ましいやり取りを聞かせてもらい、H.M.さんからは、社会人になってから法律を学びたくて、日帰りで慶応大学の科目履修生になられた時のご苦労話。その熱意にはただただ敬服するのみでした。(本当は出席者全員の近況をお伝えしたいところですが割愛)

私自身は耳が遠くなり、動作も手のろくなって、足手まといになりはしないかとひやひやしなながらも、若手の方々に刺激をいただきたく、参加を楽しんでいます。



↑乾杯の挨拶はN.S.さん



↑かるたで鍛えたO.K.さんの和歌詠唱で、場が盛り上がる



↑I.Y.さん(写真左)を質問攻めにする会員一同

2025 年度 支部総会ご報告

A. C.

新年度を迎えた4月19日(土)11時15分より、エル・パーク仙台 特別会議室にて支部総会が開催されました。出席者は12名。欠席の方々からも委任状をご提出いただき、おかげさまで総会は無事に成立いたしました。ご協力いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。

向かいの勾当台公園野外音楽堂からロックのリズムが響く中、議事も軽快に進行し、2024年度事業報告・収支決算報告・監査報告、および2025年度の事業計画案・予算案が滞りなく承認されました。

総会終了後は、昼食をはさんで講演会が行われました。今年は、2024年度の安井医学奨学金を受賞された塩崎裕美さん(東北大学大学院 薬学研究科 生命薬科学専攻 博士後期課程2年)にご講演いただきました。ご研究のタイトルは「マウスにおける精神的ストレス経験後の末梢臓器の活動変化が腹側海馬での記憶の固定化に与えるメカニズムの解明」です。

一見難解に感じられるテーマですが、うつ病の治療につながる研究であることがわかると、参加者の関心は一層高まりました。ストレスが多く、高齢化が進む現代社会において、うつ病は誰にとっても身近な課題だからかもしれません。

「海馬」が記憶をつかさどる脳の部位であることは、一般の方にもよく知られているかと思いますが。研究の現場では、海馬はさらに細かく分類され、それぞれの部位の機能が詳しく調べられています。塩崎さんは、マウスの小さな海馬の中でも「腹側海馬」や「背側海馬」といった部位から脳波を記録し、そこに含まれる「リップル波」を観測することで、社会的ストレスやSSRI(抗うつ薬)が記憶に与える影響を解明しようとされています。

腹側海馬は、恐怖・驚き・怒り・悲しみ・喜びなどの情動を伴う記憶に関与し、うつ様行動の調節にかかわっていることが知られています。社会的ストレスによるネガティブな記憶の固定化に重要な役割を果たしていると考えられている部位です。

リップル波とは、脳波の中に含まれる150~250Hzの高周波成分で、記憶の固定や想起に関与しているとされています。

マウスにSSRIを投与すると、腹側海馬ではリップル波が有意に減少する一方で、空間認識や正確な記憶形成に関わる背側海馬では顕著な変化は見られません。また、ストレスに対する感受性には個体差があり、感受性の高いマウスでは、ストレスによりリップル波が増加することが確認されています。さらに、こうしたマウスにSSRIを事前投与してからストレスを与えると、リップル波の増加が抑制されることが塩崎さんらの研究により明らかになりました。これは、SSRIの抗うつ作用の一端に、腹側海馬でのリップル波の抑制が関与している可能性を示唆する成果です。

現在は、ストレスによる心拍数や血糖値の変化が腹側海馬のリップル波に与える影響についても研究を進めておられるとのことでした。

講演後の質疑応答では、研究生活に関する素朴な質問や、身近な人のうつ傾向に関する疑問など、学会や研究会とは異なる視点からの質問が多く寄せられました。塩崎さんは、研究者らしく冷静に、答えられることと答えられないことを明確に区別しながら、的確にお答えくださいました。その姿勢にも、参加者は深い感銘を受けたようです。今後のご活躍がますます楽しみです。



↑ 昼食をとりながら歓談のひとつ

← 研究のお話をしてくださった塩崎さん

2025 年度 全国総会ご報告

A. F.

5月17日～19日、新潟で全国総会が行われました。17日の支部長会、18日の定時会員総会、公開講演会に出席いたしました。

支部長会には支部長、理事が31名出席、「貸借対照表および正味財産増減計算書」「2024年度公益目的支出計画実施報告」、今年度の事業の説明がありました。その後、支部長が4つのグループに分かれて、ICTの活用、他の男女共同参画団体との連携、例会の持ち方などについて情報を交換いたしました。

定時総会では議案が全て承認され、その後、今年度の事業について説明がありました。8月7日(木)、EXPO2025の「平和と人権」ウィークに、スイスパビリオンで、対話プログラム「政治における女性たち」が行われます。また今年度の全国セミナーは、10月18日(土)、19日(日)、「ウェルビーイングと環境～くらしの視点から～」というテーマで行われます。

公開講演会では、講師の南加乃子氏(BSN新潟放送「ドナルド・キーン95歳心の旅」のプロデューサー、ブルボン吉田記念財団評議員)が、ドナルド・キーン先生が日本文学のとりこになった経緯、大英博物館で発見された古浄瑠璃「越後國柏崎弘知法印御伝記」の復活上演、東日本大震災の報道に接し日本に戻り、日本国籍を取得されたことなど、お話しされました。

1年に1度ではありますが、本部や他の支部の方々と交流ができ、とても良い時間となりました。綿密に細やかにご準備いただいた新潟支部の皆さまに感謝です。

◆ 秋の音楽鑑賞会のお知らせ ◆

Yumiko SHIBUYA
VIOLIN Recital

2025/9/14 (日) 13:30開場 14:00開演
宮城野区文化センターPaToNaホール

クライスラー：テンポ・ディ・メヌエット
ベートーヴェン：ヴァイオリン・ソナタ 第5番 へ長調 「春」 op.24
ドヴォルザーク：4つのロマンティックな小品 op.75
ブラームス：ヴァイオリン・ソナタ 第3番 ニ短調 op.108

6月2日(月) 発売開始

後援
公益財団法人 仙台市民文化事業団 (仙台国際音楽コンクール事務局)
公益財団法人 仙台フィルハーモニー管弦楽団
河北新報社、(一社) 大学女性協会仙台支部

チケット料金
全席自由 一般 3,000円 / 高校生以下 1,500円

チケット取扱い
○藤崎 ○カワイミュージックショップ仙台
○仙台中央音楽センター ●teket <https://teket.jp/14234/50744>

お問合せ：HAL PLANNING 022-262-1682 <https://www.hal-planning.com/>

この秋、澁谷由美子会員によるヴァイオリンリサイタルが開催されます。

澁谷さんは長年にわたり仙台フィルハーモニー管弦楽団のコンサートミストレスを務められ、リサイタルや放送など多方面で演奏活動を続けてこられました。2018年には宮城県教育文化功労章を受章され、現在は仙台国際音楽コンクール組織委員会の委員としてもご活躍中です。まさに仙台の音楽界を代表する存在といえるでしょう。

大学女性協会仙台支部では、今年度の秋の音楽鑑賞会として、澁谷さんのリサイタルを応援させていただくこととなりました。リサイタルのチラシを添付しておりますので、鑑賞をご希望の方は、澁谷さんご本人または赤松（書記）まで、直接お申し込みくださいますようお願いいたします。

【日時】 2025年9月14日（日）13:30開場 14:00開演

【場所】 宮城野区文化センター PaToNa ホール

(JR 仙石線「陸前原ノ町」駅下車 徒歩1分)

【申込先】 澁谷由美子
赤松千鶴

◆ 2025年度 今後の予定 ◆

- 9月14日（日） 澁谷由美子 ヴァイオリンリサイタル
- 10月30日（木） 公開講演会「音楽と人生」澁谷由美子会員
13:30-15:00 エル・パーク仙台 セミナーホール
(後日、詳しいご案内をお送りします。)
- 2026年2月 2025年度新年会

仙台支部便り「けやき」No.29

2025年6月20日 発行 (一社) 大学女性協会仙台支部

記事に関するお問い合わせは赤松（書記）まで